

・RYUKA・  
with Free Vision

# 最先端技術をバツクアツプ 急成長の特許事務所

龍華国際特許事務所 代表

龍華 明裕 さん

インタビュアー ケント・ギルバート



**ケント** 最近の特許関連の事業は何かですか。

**龍華** お客様のニーズは大変高くなってきております。

**ケント** 日本の技術も最近はずっとレベルが高くなってきていますからね。最近の特許庁の審査にはどのくらいかかりますか。

**龍華** 審査の請求をしてから2〜3年くらいですね。これでも早くなったほうです。

**ケント** そうですね。よくわかります。現在の事業はいつ頃から始められたのですか。

**龍華** 7年前です。

**ケント** その前はどちらで勤められていたのですか。

**龍華** 前職はワシントンDCの事務所です。その前には日本の特許事務所で働いていました。もともとキャンボンで技術開発に携わっておりました。

**ケント** そうなのですか。技術系のご出身なのですね。独立して7年ということですが、スタッフの方々は何名程いらっしゃるのでありますか。

**龍華** 30名です。3人の弁理士、技術スペシャリスト、法律系スタッ

フ等で構成されております。

**ケント** ということは、固定のクライアントも多いのですか。

**龍華** そうですね。インテル、サニマイクロシステムズ等、電子関連の大手企業さんが主なクライアントです。

**ケント** それはすごいですね。成長企業のクライアントさんが多いですね。

**龍華** ありがとうございます。クライアントのほとんどは、お客様や、一緒に働いたことのある、国内、米国、欧州の弁理士さんご紹介によるものです。

**ケント** 米国にいたときのネットワークによるものも大きいのですか。

**龍華** はい、米国で一緒に仕事をした弁理士さんからもしばしばご紹介を頂いていますが、それに限らず、仕事上のメールやフェイスブックでしか互いを知らない、欧州やアジアの弁理士さん達からも、ご紹介を頂いています。実務に勝る営業はありません。

**ケント** 特許申請は日本の企業さんが主ですか。

**龍華** 件数にして日本のお客様

が日本側に申請するケースが4割、外国に申請するケースが4割、あとの2割は外国のお客様が日本に申請するものです。最近では外国のお客様が多くなってきておりますね。

**ケント** どのような申請内容が多いのですか。

**龍華** 通信、エレクトロニクス、半導体ですとか、ソフトウェアといった、IT関連技術をサポートしております。

**ケント** 最先端の技術ですね。難しそうですが、申請書を書く際のポイント等あるのですか。

**龍華** 出願する発明を価値の高いものにするには、発明の創出方法や、特許出願のプロセスを改善していく必要があると思っております。ですので、このような出願前に発明をじっくり検討する段階から、価値ある特許を得るためのサポートをさせていただいております。

**ケント** 具体的にはどのようなことを行っているのですか。

**龍華** どのような技術があればどのような商品ができるのか、そういう視点で研究開発者から発

明を生み出させるよう誘導しています。一言で言えば、応用の幅が広い基本特許を創出するためのサポートをさせて頂いております。

**ケント** 代理人というよりコンサルタントという感じなのですね。

**龍華** そうですね。研究開発者が考えた発明を、より強い権利とするために共に様々な角度から検討し、提案させていただいております。私達はこれを発明の展開と言っています。

**ケント** これからの事業の展望はどう考えていますか。

**龍華** 現在考えていることは、この発明の展開サービスを発明の創出の段階のみならず権利化までのあらゆる段階において応用し、提供していきたいと思っております。クライアントの未来に貢献する技術集団として、特許事務所という枠を超えて、発明の創出から権利化までをトータルサポートしていきたいですね。また、日本だけではなく外国のお客様に対しても、ご利用いただけるような準備を整えています。

**ケント** 楽しみですね。ありがとうございます。

出身地	東京都
業種	特許事務所
取扱商品	国内及び海外への特許・実案・意匠・商標の出願等の申請業務、コンサルティング等